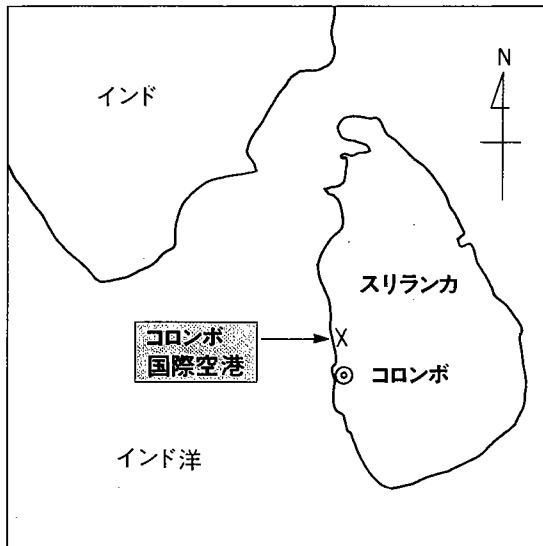


コロンボ国際空港整備事業

スリランカ

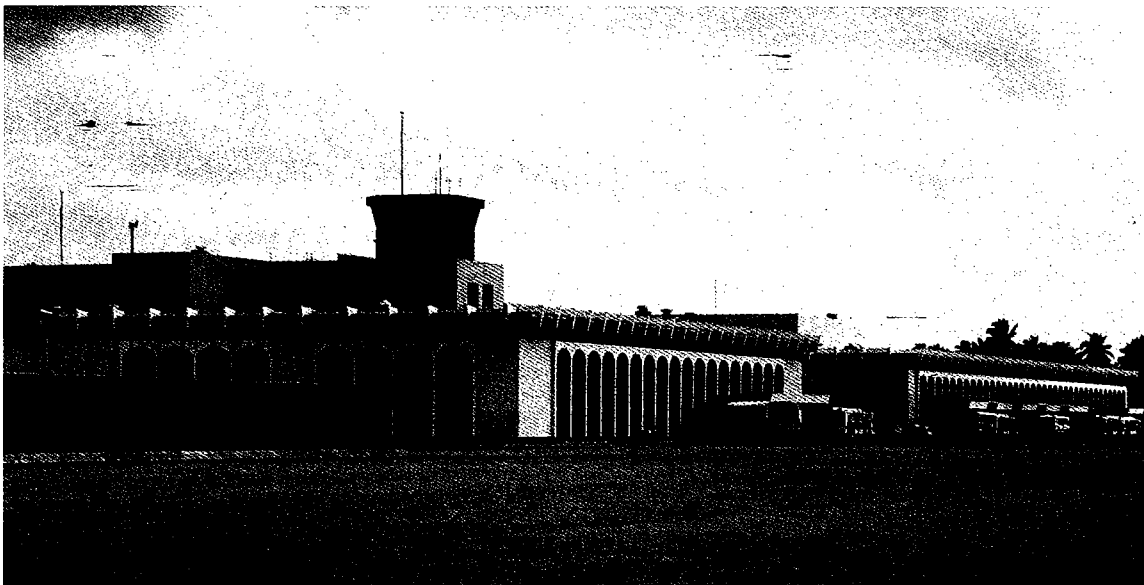


■事業概要

借款契約締結年月	借款金額
1983年4月	102億円

1946年に開港したこの空港は、1968年に滑走路

の延長、及びターミナルビルの建設が実施されコロンボ国際空港へと昇格して以来、スリランカ唯一の空の玄関として重要な役割を担ってきました。しかしながら飛行機の大型化が進行し、旅客・貨物量も年々増加する一方で、滑走路は老朽化しており、またターミナルビルは1975年に拡張工事が行われたものの、既に収容能力は限界に近づいていました。そこで、本事業ではこのような問題を解消し、今後の航空需要に対応できるように同空港の全面的な拡張整備を行いました。具体的には3,350mの滑走路の新設、将来の需要予想に基づいた旅客及び貨物ターミナルビルの改修・新設、更には管制塔機器の整備等が行われました。OECFは旅客ターミナルビル改修・新設に必要なとされる資金を供与しましたが、それ以外の部分の必要資金については日本輸出入銀行、イギリス等からの公的資金が導入されています。建設工事は国内紛争の影響を受け、一時的な中断を余儀なくされるといった事態も発生しましたが、事業内容については概ね当初計画された通りに実施され、1988年10月に完工しました。



▲新旅客ターミナルビル（手前が改修された到着ビル、奥が新設された出発ビル。）



▲ 出発ビル：税関と航空会社チェックインカウンター前の状況。

■運用状況と効果

完成後の運用状況について見ると、スリランカにおける国内紛争による政情不安定の影響を受けて同国への観光客が伸び悩み、1991年度の旅客数及び運航実績（各々152万人、1万2千回）は、当初の需要予測値を下回る結果となっています。但し、旅客数の年平均伸び率について見ると、事業実施前の5年間（1983年～88年）はマイナス0.4%であったのに対し、事業実施後の3年間（1988年～91年）では8.3%と増加に転じています。特に、外国人観光客数については事業実施前の5年間がマイナス11%であったのに対し、事業実施後の3年間では20%の伸びを示していることから、今後の更なる伸びが期待されています。一方、貨物取

扱量については順調な伸びを示しており、1991年の取扱量は約4万4千トンと概ね需要予測の通りの実績をあげています。これは、同国政府が当該空港の隣接地に輸出促進のために設置した輸出加工区が年々活性化してきていることが大きな要因であると思われます。このような順調な貨物取扱量の伸びによって、貨物ターミナルビルは既に混雑し始めており、今後の貨物取扱量の増加も充分に見込まれることから、空港公団によって新貨物ターミナルビルの建設が進められています。

（評価時期：1992年7月）